

NGO・NPOの環境保全活動を支援します

— 環境再生保全機構 —

地球環境基金便り

No. 58
2026

あなたの「まち」はどう？
**地域が主役の
脱炭素！**

NGO・NPOの環境保全活動を支援します

地球環境基金便り

No. 58 | 2026

Special Interview

小森 隼

KOMORI HAYATO

思考をやめず
みんなで
考え続けよう！



目次

02 | 特集：地域脱炭素

- ・ローカルグッド創成支援機構
稲垣憲治さん
- ・助成先団体の活動から

10 | 社会的共感と反響を得た環境活動

- 12 | 若い世代の環境活動
- 14 | 環境キーワード
- 15 | 環境カレンダー2026

16 | ご寄付について

スペシャルインタビュー

小森 隼さん



独立行政法人 環境再生保全機構

発行／地球環境基金部基金管理課 編集協力／株式会社文化工房

URL：https://www.erca.go.jp/jfge/

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8F

E-mail：c-kikin@erca.go.jp TEL：044-520-9606 FAX：044-520-2192



follow us!

X
@ERCA_kikin



Instagram
@erca_kikin



Facebook
地球環境基金



単なる脱炭素ではなく 地域のメリットがセットです

地球規模の環境保全に つながる「地域脱炭素」の 取り組み

はじめに、今回のテーマ「地域脱炭素」という言葉や考え方が生まれた背景をおさらいしておきましょう。

CO₂を減らしながら
まちにいろいろなメリットを

地域が主役!の脱炭素

「地域脱炭素」とは、都道府県や市区町村がそれぞれの地域の資源や特性を活かし、脱炭素を進めながら、同時に地域の発展や課題解決を実現させる取り組みです。さまざまなアイデア、多彩なプレイヤーによる「地域脱炭素」の取り組みが始まっています。

「脱炭素先行地域」を 全国各地に選定

地域脱炭素とは、それぞれの地域がもっている山・川・海などの自然資源や、人・技術といった人的資源など、あらゆる資源を最大限に活用して脱炭素に取り組み、それと同時に、地域の経済を循環させたり、身近な課題を解決したり、日々の防災・暮らしの質を向上させたりして、地域にメリットを生みだしていこう、というものです。

この考え方をもとにして、地域の特性を活かし、脱炭素と地域活性を実現するモデル地域である「脱炭素先行地域」を、2030年までに100カ所以上選定することが目標に掲げられています。

これまでの約5年、さまざまな支援策や予算措置などの後押しもあり、2025年9月現在、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指すことを表明した自治体「2050ゼロカーボンシティ」は、日本の市区町村

の約68パーセントに当たる1188にのぼっています。そして、「脱炭素先行地域」は40道府県、計90件が選定されています。

この動きが全国に波及する「脱炭素ドミノ」に向けて、各地域でのさらなるアクションが期待されています。

お話を伺ったのはこの方



一般社団法人ローカルグッド創成支援機構
事務局長 稲垣 憲治 さん

文部科学省、東京都庁を経て、脱炭素&地域活性化への思いが高じ2020年から現職。地域新電力支援、環境・まちづくり支援で全国を奔走。著書に『地域新電力 - 脱炭素で稼ぐまちをつくる方法 -』（学芸出版社）ほか。

「地域脱炭素」ロードマップのイメージ



- 2030年までに少なくとも100カ所の「脱炭素先行地域」をつくる
- 重点対策を全国津々浦々で実施

防災・減災

経済・雇用

循環経済

快適・利便

脱炭素で強靱な活力ある
地域社会を全国で実現!
2050年を
待たずに!

現在、選定されている
「脱炭素先行地域」は

40道府県で
90件!
※2025年
9月時点

「地域脱炭素」は、
地域にこんなメリットを
もたらしめます

- 地域にお金にとどまる
- 地域のレジリエンス(強靱性)向上につながる
- 再エネが地域の競争力・ブランディングにつながる
- 地域の課題を解決できる
- 快適な暮らしにつながる

住む・食べる・移動する 暮らしのさまざまな 場面で脱炭素

脱炭素への取り組みは暮らしのあらゆる分野で始まっています。

まずは、地域に眠るポテンシャルを活用した「再生可能エネルギー(再エネ)」の導入。そして、ビルや家を省エネと創エネを組み合わせることで、消費エネルギーを実質ゼロにする「ZEB(ゼロエネルギービル)」や「ZEH(ゼロエネルギーハウス)」です。農林水産分野では、堆肥の高品質化やCO₂吸収量を確保する林業活性化などが挙げられます。運輸分野なら、再エネで発電した電力を使ったEV(電気自動車)やFCV(水素と酸素で走る燃料電池自動車)を活用した「ゼロカーボンドライブ」などがあります。

すでに、幅広い分野で多くのアイデアが生まれ、各地で計画・実行が進んでいます。

いずれの分野においても関係するのがエネルギーです。そのため、地域密着型の再エネによるエネルギー事業が、地域脱炭素の切り札になるとも言われています。

地域脱炭素

自然資源を活用した「再エネ発電」で弾みをつける

太陽光や風力、水力などを利用する再エネは、発電時に温室効果ガスのCO₂を排出しないだけでなく、自然の力で再生されるため、化石燃料のような資源の枯渇や世界情勢に影響される心配の少ないことが魅力です。

この再エネの登場により、エネルギー事業の小規模化と地方分散が可能になり、エネルギーの地産地消が現実のものとなりました。

なぜエネルギーの地産地消がよいのか。それは、地域脱炭素で地域にもたらすメリットの筆頭である「経済的メリット」につながるからです。これまでの地域の経済活性化事業というと、特産品の販売や観光業などによる「外貨を稼ぐ」取り組みが中心でした。しかし、その逆の「地域内→地域外へ出るお金」に目を向けてみましょう。

地域主体でエネルギーの地産地消

地域内外との連携が重要 地域主体での運営を

地域での再生可能エネルギー事業（再エネ事業）は、地域にさまざまなメリットを生む可能性がありますが、その一方で、課題も浮き彫りになっています。

実は地域外の会社が再エネ事業を実施しているケースが少なくありません。メガソーラーの約8割が地域外の事業者によって運営されているというデータもあります（※1）。

もちろん発電事業には専門知識や資金も必要で、地域内だけで解決できないこともあります。しかし、地域の自治体・企業・住民、いわゆる地元の人たちが主役になることが、地域経済循環などの地域メリットを生むためには肝心なのです。

これから地域脱炭素を始める際には、事業開始時に「地域でできる部分」と「できない部分」を切り分け、できない部分も地域外との連携で徐々に地域にノウハウを蓄積し、何年後に自立運営を目指すかを明確にしたロードマップを描くことが重要です。地域脱炭素は、地域のメリットがセットであることを忘れてはいけません。

地域脱炭素は、まちづくり！ エネルギーを地産地消しよう

を行うことによって、流出していた電気・ガス・ガソリンなど、エネルギーに関するお金を地域内にとどめ、地元で経済循環する仕組みをつくることは、外貨を稼ぐのと同様またはそれ以上のメリットを生む可能性があるのです。

「地域エネルギー会社」で 地域にお金を回す

そのために重要となるのが、地域で再エネを開発したり、需要家に電気を届けたりする「地域エネルギー会社」です。

再エネを開発することにより、発電時のCO₂排出量が減ります。さらに、エネルギー関連のお金の流出が抑制され、雇用も創出。地域経済が活性化、循環します。

自分たちで発電・蓄電できることで、災害にも強くなりレジリエンスが向上、地域の課題解決にもつながります。多様なプレイヤーが関わる電力事業を中心に、いわば、まちづくりが進んでいきます。

最大のカギは「人」 地域脱炭素の担い手を 増やそう！

地域主体での再エネ事業には「人」が必要です。自治体が地域エネルギー会社に出資などをしている場合もありますが、自治体職員は異動も頻繁にありますし、会社経営などの知見・経験は乏しいのが一般的です。再エネ事業では、やはり地元の民間プレイヤーが主体となることが望まれます。特に地場産業を支える地元を代表する企業や組織などが中心になると、地域脱炭素がうまく進むケースが多いのです。

地域エネルギー会社は、これまで小規模自治体には存在しなかった「ローカルシンクタンク」の役割も果たしていることが多く、自治体とともに環境政策やまちづくりを推進する力にもなっています。



※1 固定価格買取制度導入後のメガソーラー事業者の地域性（櫻井あかね氏：2018）より

こんな！

脱炭素をしながらメリットが生まれています

経済循環！ 【愛知県半田市】

地元企業を中心となった「ビオクラシックス半田」では、畜産・食品から出る地域の“バイオマス資源”を収集して発電するとともに、発電時に出る排熱・排ガスを隣接するバイオファームで農業利用。副産物として発生するバイオ液肥は地域の農場で利用。経済とエネルギーの循環を実現しています。



（出所）オムロンフィールドエンジニアリング

手付かずだった遊休地をメガソーラーに変えることでインシシによる被害を解決。事業説明会では住民から拍手が起り、その後、地元からの要請により、閉鎖された市内スキー場跡地にも新たなソーラー発電のプロジェクトが進んでいます。

ブランディング！ 【京都府福知山市】

市民一人ひとりが出資者となった「たんたんエナジー」では、太陽光発電事業を展開。地元の観光名所である福知山城の電気を100%再エネにして、観光PRにつなげました。



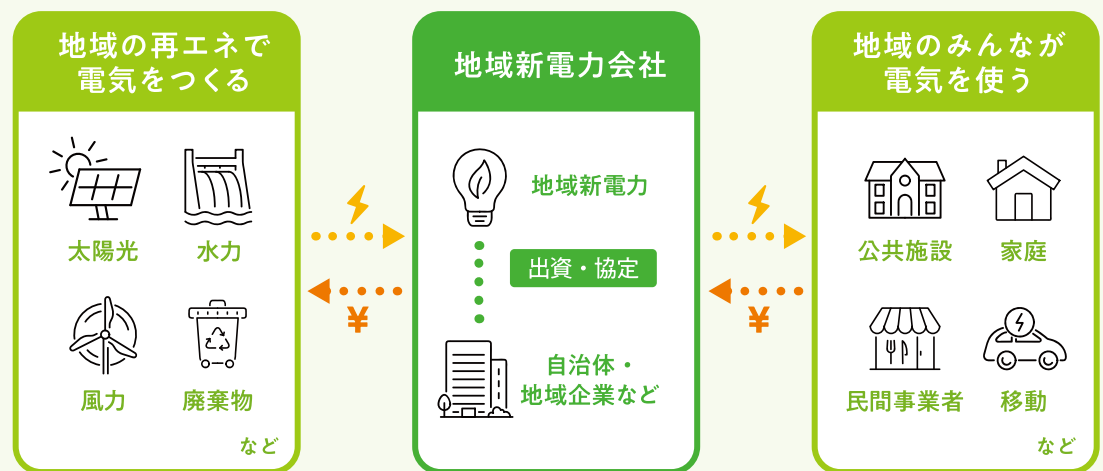
（出典）<https://www.env.go.jp/content/900448329.pdf>

中学校に太陽光発電設備と蓄電池を導入。地震で停電が発生した際にも、電力が供給され、施設を避難所として活用できました。

レジリエンス向上！

【北海道厚真町】

例：地域内で「エネルギーの地産地消」のイメージ



CO₂
削減！

経済
循環！

雇用
創出！

災害時
電源確保！

#01 Solar sharing

農地の頭上で発電！
主役は地域の農家です



飯田 哲也さん

一般社団法人

全国ご当地エネルギー協会

助成活動名：地域GX加速化に向けた地域PPA等
仕組みづくり・協働・実装

活動地域：全国各地域

活動開始：2014年

「ソーラーシェアリング」に見る 地域主導型エネルギー“の未来”

2014年の発足以来、全国各地で地域主導型のエネルギー事業を支援。実践を通じた幅広い知見やノウハウを集約・共有し、地域GX（グリーン・トランスフォーメーション）を推進している「全国ご当地エネルギー協会」。地球環境基金では2016年より、活動を助成しています。地域が主役となるエネルギー事業は、地域脱炭素の要です。現在、長野県で進行中のソーラーシェアリング「野辺山営農ソーラー」の活動とともに、事業を成功に導くポイントも紹介します。

非FIT環境でも継続できる 地域エネルギーモデルが必要

2011年の東日本大震災、翌年のFIT法（再生可能エネルギーの固定価格買取制度）施行で、地域主導型のエネルギー事業は急速に進展しました。全国で50地域以上もの事業化に結びつき、2014年の当協会の発足にもつながりました。

しかし、それから10年以上が経ち、この先の再エネ推進のために、非FIT環境でも持続可能な、新しい地域エネルギーモデルが求められています。

ご存じですか？

「コミュニティパワーの三原則」

再生可能エネルギー開発における、世界的な指針「コミュニティパワーの三原則」をご存じでしょうか？

1つ目は「地域が所有する」。地域住民がオーナーとなり、当事者意識を持ち、自分ごととして考えること。2つ目は「地域が重要な意思決定に参加



太陽光を上下でシェアしてフル活用。上で、約3000世帯の1年間分の電力を発電。下では、ほうれん草などの収穫が可能です。

野菜・電気・地域交流を生む ソーラーシェアリング 「野辺山ヌーヴォー」

持続可能で自立した地域づくりを進める重要な柱のひとつとして、世界的にも注目されているのが、農作地の上に太陽光パネルを設置する、営農型太陽光発電「ソーラーシェアリング」です。太陽光パネルは農作物に影響を与えない遮光率で設置されるため、お米はもちろん、たっぷりの太陽光を必要とするトマトも含め、日本で栽培されるほぼ全ての主要作物品種で問題なく栽培可能です。すでに全国1500カ所



以上で実用化されています。

ソーラーシェアリングによって発電した電力を売電することで、農家は収入を得ることができ、自家消費に使用えばエネルギーコストを削減できます。農業が主であることから、営農型太陽光発電というより、「太陽光活用型農業」と表現したほうが実情に近いかもしれません。

現在進行中のプロジェクト、長野県「野辺山営農ソーラー」では、標高1350メートルの高原に広がる約3ヘクタールの農地に、ほうれん草などの55棟のハウスを並べ、その頭上およそ6メートルに太陽光発電パネル約3000枚を設置し、電力の全量を売電しています。まもなく敷地内の建物エネルギー自立型施設にリノベーションした「野辺山ヌーヴォー」



八ヶ岳を望む「野辺山営農ソーラー」。標高1350mの高地に3ha（25mプール100個分）の広さで発電と農業を展開。

明るい未来が
見えてきました！

「野辺山ヌーヴォー」主宰 宮下さんに聞きました



わが家は、春はレタスやキャベツ、夏は花の苗を栽培する農家です。耕作放棄されていた農地の再生と持続的な農業を目指し、野辺山にソーラーシェアリングを計画したのが2017年。そこから丸5年をかけて近隣の250戸以上の人たちと対話し合意形成し、その後、約2年をかけて井戸を掘ったり、地中の石を掘り除いたり、農地を整備してきました。

人、水、石という壁に直面しながらも、ここまでやってこられたのは飯田さんをはじめ、多くの人とのつながりと支えがあったからです。

営農ソーラーは、農業ありき。農作物に重きを置いて、ケチケチせずに設計することが大事です。ソーラー発電の収入があるおかげで、思い切ってハウスも設置できました。

一緒に営農していく土屋さんは4つ年下で、地元の消防団仲間です。我々、若い世代の挑戦を、多くの人に応援してくれています。野辺山ヌーヴォーでは、妻との二人三脚で、ブルーベリー栽培やカフェ営業を行う予定。これからが楽しみです！



野辺山ヌーヴォー：https://noveyama.jp

大切なのはハードよりソフト 人が見える・顔が見えること

私たち全国ご当地エネルギー協会は、事業立ち上げの初期段階で、主体者の右腕となって一緒に動きをサポートしますが、目標はあくまでも事業が軌道に乗り、自立してもらうことです。はじめは協会を通じて、地域外の専門家などの力も借りますが、並行して、地域内での人材発掘にも力を注ぎます。野辺山のプロジェクトでも、設計者、デザイナー、カメラマンなど事業推進に必要な協力者を地元で増やしているところ です。

数多くの地域エネルギーを支援してきた経験から、やはり大事なものは、人が見える・顔が見えるということ です。ハード（発電施設）ではなくソフト（人・コミュニティ）が育たないと事業は続きません。地域エネルギーの普及と持続には、年齢・性別・立場の異なる多様なプレイヤーが必要です。

当協会としても、今後は女性、若者、企業人、シニアといった新規層へのアプローチに注力していきます。全国各地で地域エネルギーへの関心を高め、地域エネルギードミノ・脱炭素ドミノに向けた連携拡大を、さらに進めていきたいと思っています。

#02 Power Generation

小規模の再エネ普及で
地区を脱炭素へ！



仁木 佳男 さん

一般社団法人

南紀自然エネルギー

助成活動名：色川地区暮らしの脱炭素プロジェクト及び
自然エネルギー学校の近隣展開

活動地域：和歌山県那智勝浦町など

活動開始：2014年

水利を活かした「小水力発電」 超小規模のD-I-Y小水力・太陽光も

9つの集落、人口約300人の那智勝浦町色川地区の脱炭素を目指し、小規模な水力発電や太陽光発電の普及を目指している「南紀自然エネルギー」。事業化に向けた「小水力発電」のほか、住民主体の超小規模な「D-I-Y小水力」「ニワソーラー」にも挑戦しています。

安価にすることができ
「D-I-Y小水力」も検証中

町の「地域循環共生圏」構想を機に住民有志が集まり、地区の脱炭素に向け活動をしています。色川地区は山間にあり水量豊富な沢が幾筋もあることから、当初より住民の関心が高かったのが「小水力発電」です。「自然エネルギー学校」という名のもと勉強会を開催し、担い手づくりを行ってきました。近隣の新宮市、古座川町、すさみ町でも「自然エネルギー学校」を展開してきました。

色川地区内では、ダム設備の健全度の問題、水利組合との調整などで足踏み状態となっていますが、近隣の2つの町では事業化への検討が続いています。そうしななか、並行して実施・検証を進めているのが「D-I-Y小水力」です。汎用品で安価に手づくりし、1キロワット程度のごく小規模発電を行うモデルです。目標としていた建設コスト100万円/キロワットはクリアしました。安定稼働ができれば、他地域でも普及可能な住民主体の超小水力発電モデルとして展開できると考えています。

パネル1〜4枚を庭先に置く
超小規模な太陽光発電も

太陽光においても超小規模発電モデルとして「ニワソーラー・プロジェクト」が進行中です。屋根ではなく庭先などにパネルを1〜4枚設置。パネルなどをレンタルすることで、初期費用ゼロで電力自給生活を始められる仕組みをつくりました。設置した14軒



「自然エネルギー学校」では小水力発電の候補地を探して実地調査。

庭先にパネルを設置する超小規模太陽光発電「ニワソーラー」。



では、太陽光発電電力の自家消費によって購入電力量が2割以上削減できたお宅もありました。住民が日々の電力使用状況を意識するようになる行動変容や、色川中学校での特別授業開催にもつながっています。

DIY小水力の発電実験。



#03 Charcoal

炭で電気をためられるって
知っていますか？



高濱 宏至 さん

特定非営利活動法人

Class for Everyone

助成活動名：木炭蓄電池による地産地消型の
エネルギー供給モデルを作り普及させる活動

活動地域：神奈川県相模原市

活動開始：2012年

地域材で「木炭蓄電池」をつくり エネルギーの地産地消を

森林課題対策と自然エネルギー普及を同時に叶える、木炭蓄電池を使った地産地消型のエネルギーシステムの普及に取り組んでいる「クラス・フォー・エブリワン」。森林大国の日本にとって木炭蓄電池は、地域脱炭素の新しいモデルとして可能性を秘めています。取り組みの現在地を紹介します。

ナラ枯れ材を活性炭にして
木炭蓄電池に！

きっかけは地元の山林のナラ枯れでした。ナラ枯れ被害は日本各地でも急増しており、ナラ材の活用手段として「木炭蓄電池」に着目。これを要とする、地域の森林で伐採→地域の住民で木炭蓄電池を製造→ソーラー発電と連動、という地産地消型エネルギーシステムの構築に取り組んでいます。木炭は高温処理すると活性炭になり、電気をためられます。リチウムイオン蓄電池などに比べると蓄電量は

少ないですが、水に濡れても傷まない
高い耐久性が特長です。

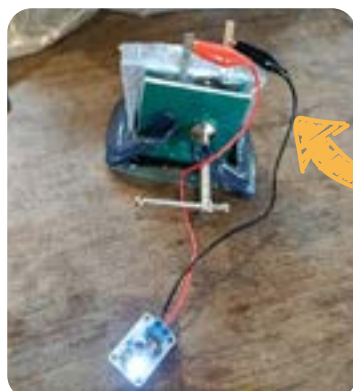
水に強い特性を活かし
獣害対策の電気柵にも

実用化に向け、獣害に悩む農家の畑の電気柵に木炭蓄電池を試験活用中です。乾電池は定期的な交換が必要ですが、木炭蓄電池は雨にも強く、長期にわたりメンテナンスフリーで使えます。現在、1年半以上、毎日問題なく稼働中です。

また、地産地消型エネルギーシステム構築に向けては、木材の伐採・炭焼き、ソーラーシステムに取り組む地元団体との連携が進んでいます。難航していた木炭を活性炭に変える賦活（ふかつ）作業も、陶芸家の協力を得て陶芸用電気炉の改造に成功。特製装置を製造できました。

これらと同時に、木炭蓄電池の存在を知ってもらうためのワークショップも実施しています。「自分でつくれる」という体験は生きるうえで自信になります。

木炭蓄電池に！



木炭蓄電池は、島根県の松江工業高等専門学校との共同研究として活動中。



木を
切り出し

活性炭
にして

まだまだ研究途上の技術もありますが、木炭蓄電池の性能アップと簡易化を進め、普及に弾みをつけていきたいです。



木炭蓄電池は、水に強く、定期メンテナンスも不要。屋外利用に適しているため電気柵でも活用。



官学民産が集まって
「大そうじ大会」



エコユースの活動を
まとめて毎年配布



水質浄化活動
「かき殻まつり」



高校生がラジオで
情報発信！



小学生の
「子どもごみパトロール隊」



愛称「生き物湯り」の干潟では、
毎月、生きものの調査を行っています

Close Up! 社会的共感と 反響を得た環境活動

～活動の軌跡とノウハウ～

高校生にも輪が広がり ユースチームが誕生！ つながりが、つながりを呼ぶ

2024年「くまもとSDGsアワード」未来づくり部門で大賞を受賞した「次世代のためにがんばる会」。地球環境基金は2013年から通算11年にわたり、その活動を助成しています。地域に変革をもたらし、成果を創出し続ける活動の様子を代表の松浦さんに伺いました。

Q これまでの活動を 教えてください

熊本県八代（やつしろ）地域は、日本三大急流のひとつ、球磨（くま）川の河口にあります。八代平野の広大な干拓地や豊かな干潟は、国内有数の農業地帯であり、地域の宝です。私たちは「官学・民産の連携」を掲げ、およそ四半世紀にわたり、河川、海辺、水をテーマに環境活動を続けてきました。多様な分野の人たちとのつながりは活動のカギです。発足当初の主活動であったカキ殻を使った河川浄化活動では、地元の漁協、八代市環

境課、近隣の小学校と連携。浄化活動を「かき殻まつり」と名付け、誰もが参加できる恒例イベントにしたことで、地域に根付いていきました。2004年から続くごみ拾いも同様で「八代海河川・浜辺の大そうじ大会」と銘打ち、地元の高校生や地域の企業、八代野鳥愛好会や八代植物友の会のメンバーにも参加いただきました（地球環境基金の助成期間〈2018・2019年〉。年々、参加者が増加し、約800人が集まり、拾うゴミが足りない年もありました。現在注力している干潟再生活動では、国土交通省と協働し、毎月、生き物調査を実施しました。年間450人あまりが調査に参加し、「干潟フェスタ」には約250人が来訪。干潟の愛称を全国募集したことで八代地域をアピールすることもできました。このほか、地元小中高校での出前授業、東京大学教授、内閣府官房らを招いた講演会やワークショップなども随時実施しています。

Q どうして、たくさんの人 を巻き込めるの？

それは「厚かましくお願いに行く」「すぐ行動する」からです。例えば、学校なら、一校一校に手紙を送り、会いに行き、想いを直接伝えて回ります。イベントでは「一緒にやらなければもったいない！」と思った人たちにはどんな声をかけ、現場で知り合いを紹介し合い、人と人をつなげてきました。

環境活動にあまり縁のない地元の60・70代の女性たちにも「イベントで豚汁をつくって！」と、食を通じて関係者になってもらい、つながっていきます。そうして関心が薄い層や幅広い世代もゆるやかに巻き込み、地域のこれからを「自分ごと」として感じてもらえるよう、輪を広げ続けてきました。

大学教授に講演を依頼する時も、ご近所さんに豚汁づくりをお願いする時も同じく、「一度お願いしたら信頼して「まかせろ」のがモットー。周りからは「ムチャぶり」とも言われますが、自分ごとにしてもらうために、余計な口を出さないことが大切です。それと、協力いただいた方たちへの、感謝のハガキも忘れません。

Q 高校生チームは どのように誕生したの？

5年ほど前、大そうじ大会に参加した高校生たちが「来年はスタッフで入りたい」と言ってくれました。これをきっかけに、地域の6校の生徒が集まり誕生したのが、高校生チーム「エコユースやつしろ」です。現在中学生から大学生まで150人以上のメンバーがいます。

2022年に熊本で開催された「アジア・太平洋水サミット」では、メンバー18人が国際的な舞台にも立ちました。大そうじ大会の企画・運営も今では高校生たちが中心。ごみ拾いや生き物調査などを行う「生き物湯（がた）リフェスタ」へと成長しています。地元のラジオ「FMやつしろ」でもメンバーが定期的に情報を発信しており、ラジオを聴いて加入してくる学生もいます。そんな高校生チームと一体になった、広がりのある活動が評価され「くまもとSDGsアワード」の未来づくり部門大賞をいただきました。活動開始からまもなく25年が経ちますが、これまで育んできた、人と人をつながっていくこの活動の仕組み多様な活動を、若い世代にしっかり引き継いでいきたいと思います。

松浦さんの5か条

得意技は
「ムチャぶり」です！

- 1 熱き想いを胸に、**まず行動！**
- 2 活動は、五感で感じる**体験型**に！
- 3 役割分担して、**まかせきる！**
- 4 **感謝を伝える！**
- 5 人と人との**つながりが一番大事！**



代表 松浦 ゆかりさん

高校生チーム「エコユースやつしろ」

活動を通じて
八代の自然環境の
課題の多さに驚いた。

運営にも携わることが
できるのが魅力！



八代の干潟について
多くの人に知って
もらいたい。

自分の目で見て、学び、
考えていきたいです。



知識ゼロから参加して1年、
学びが多いです！
次世代のためにがんばります。

木村 朋子さん

山崎 かすみさん

楽しく活動しています！
学生たちの成長も
楽しみのひとつ。

今回お話を伺ったのは この団体

任意団体 次世代のためにがんばる会

団体の設立年 2001年 活動地域 熊本県八代市

これまでの地球環境基金の助成活動内容と主な成果

- 2013年～ ごみ減量意識改革・循環型社会に向けた基盤づくりプロジェクト
- 2014年～ 八代地域における循環型社会に向けたごみ減量・生ごみ堆肥化推進活動
- 2018年～ 八代海河川・浜辺の大そうじ大会と干潟保全に向けた青少年ワークショップ
- 2021年～ 八代市における青少年による水環境に係る自主活動の支援推進事業
- 2024年～ 地域のことを知り、地域のこれからの「自分ごと」として考える「地域住民参加型干潟保全活動」



「八代海河川・浜辺の大そうじ大会」が大成功

「エコユースやつしろ」が誕生！

「干潟フェスタ」の開催
干潟の愛称を募集し
「生き物湯り」に決定

若い世代の環境活動を応援しています！

小さな声も、やがて大きく広がる！ ユースの声が政策に反映される社会へ

JYPSは、持続可能な社会の実現に向けて、日本のユースの声を政策に反映させることを目的とした、ユースによるプラットフォームです。国際会議への派遣や政策提言、学びの場づくりを通じて、ユースの声を社会に届け、行動へとつなげています。取り扱う分野は、気候変動、生物多様性、ジェンダー、教育など幅広いです。



私は高校3年時にJYPSへ参加し、現在大学2年生です。政策提言部に所属し、主に環境・気候変動・生物多様性分野の政策アドボカシーに関わっています。本年10月にアブダビで開催されるIUCN世界自然保護会議2025(WCC)に参加予定で、ユースの声を政策にぶつけるた

めの提言や意見交換の準備を進めており、日々ワクワクしています。

アドボカシー活動の意義は「声を持たない/届きにくい立場の人々や世代の声を、社会や政策の意思決定の場に届けること」です。特に若者は未来の影響を最も受ける当事者であるものの、まだ意思決定の場に十分には関わられません。だからこそ、声を上げ、建設的な提言を届けることで、社会の仕組みをより包摂的に変えていく力になります。小さな声でも、声を上げられていない人の共感を呼び、やがて大きく広がり、政策や制度に影響を与える可能性が大いにあります。

近年では、日本でもユース参画が着実に進み、政策提言や国際会議に若者が参加する機会は増えました。しかし、機会はあれど、実際に政策へ反映される仕組みが十分に整備されていないことが大きな課題だと感じています。

日本のユースは、気候変動や生物多様性への危機感が強く、関心も非常に



Japan Youth Platform for Sustainability (JYPS)
嶋田 恭子さん

高いです。その背景には、災害の頻発や異常気象、そしてSNSを通じたグローバルな情報共有によって「自分たちの未来が左右される」という実感を持つようになったことが挙げられます。私も大学でライフサイエンスを専攻しています。今後も生物多様性や気候変動、自然資本に関する科学的知見をわかりやすく共有し、政策や市民の行動に役立てる活動へ注力し続けていきたいと思っています。

近い将来、政策にユースの声が「あたりまえ」に反映される社会になってほしい。そして、誰もが「未来と一緒に作る仲間」として協力し、課題解決が重荷ではなく、ワクワクする挑戦として熱量をもって楽しく進められる社会にしていきたいです。

未来の環境を守るために 豊島の産廃不法投棄問題を伝えていく

瀬戸内オーリーブ基金は、香川県の豊島(てしま)という人口700人ほどの離島に事務所を置く団体です。1980年代に豊島で日本最大規模の産業廃棄物の不法投棄事件「豊島事件」が発生しました。豊島事件の公害調停が成立した2000年に、豊島のような環境破壊・人権侵害問題を二度と発生させないために、全国から集められた寄付金で設立されました。



現在は、豊島事件から学ぶ環境学習、島本来の植生を回復するための活動、海の豊かさを守るための活動、瀬戸内海エリアで活動する自然保護団体への

助成金の提供など、瀬戸内海エリアの自然を保全し、再生する事業を行っています。

私はもともと、自然の中で過ごすのが好きで、2022年11月に瀬戸内オーリーブ基金に入職、豊島に移住しました。環境学習イベントの企画運営や、助成対象事業の「豊島事件語り継ぎ事業」のプロジェクト管理などを担当。今年度は、豊島での環境学習活動に注力しています。滋賀県の私立校の中学1年生を対象とした環境学習イベントや、香川県の小学生を対象とした豊島事件を学ぶ夏合宿を実施しました。今後は「豊島



NPO法人 瀬戸内オーリーブ基金
塩川 ゆうりさん

から始まる学び」というテーマの環境学習ツアーも考えています。

実際に豊島に来て学んでもらうことで、子どもたちや企業の若い世代の人たちに「来る前と考え方が変わった」と言ってもらえることが、やりがいにつながっています。子どもとの関わりを通じて新鮮な学びも多く、楽しいです。

豊島の産業廃棄物の問題を若い世代、特に子どもたちに伝えていくことによって、環境保全の意識を育んでいきたいと考えています。環境学習を通じた意識の醸成や行動変容が、持続可能な社会の実現に寄与すると強く思っています。



高校生たちも アクション！

「環境ユースインターンシップ」in 北海道

「第10回全国ユース環境活動発表大会(地方大会)」で「10周年記念賞」を受賞した7校の高校生がインターンシップに参加しました。地域の持続可能性に役立つ環境保全活動の現場を視察することを目的に、「第一回ジャパンSDGsアワード」を受賞した北海道下川町の取り組みや、北海道在来種と外来種の間係をテーマに旭山動物園を見学しました。また、環境学習交流会として、学校を混ぜたグループセッションを行い、環境問題に対する自分自身の想いや立場の違いを尊重しながら、多角的な視点で対話が行われました。

林業で町の経済を回せることに
半信半疑でしたが、行って納得。
地域の人たちの連携のすごさ、
人と人との関わりの大切さを知りました。

地域の特性を活かすことが
町おこしにつながる！

ワークショップを通じて
新しい友達ができ。

学習交流会で初対面の人と話すのは
緊張したけれど、よい経験ができた。

広島とは違う北海道の土地の広さも
感じる事ができた！

下川町の森林資源を
余すことなく使う取り組みは、
自分の研究と共通点があって
参考になった。

北海道、広島、それぞれの原因で
絶滅危惧種の個体数が
減っていることを知りました。

「町民全員が変えたい
と思えば、まちも変わる」
ということを学んだ。

動物園の見学を通して、
地元の獣害問題にも
目を向けるきっかけになった。

「ジュニアSDGsキャンプ」in 大阪・関西万博2025

子どもたちがSDGsや環境問題について自主的に考え国際交流や行動・態度変容につながる体験型プログラム「ジュニアSDGsキャンプ」が大阪・関西万博2025で行われました。このプログラムに2024年度「第10回全国ユース環境活動発表大会(全国大会)」で環境大臣賞、環境再生保全機構理事長賞、国連大学サステナビリティ高等研究所所長賞を受賞した、徳島県立小松島西高校[TOKUSHIMA雪花菜工房×藻藍部]、宮城県農業高校[Re:温故知新]、北海道岩見沢農業高校[自然エネルギー班]の生徒が参加、それぞれの環境活動について世界に向けて発信しました。また、当日は活動発表だけでなく、地域の大学生と持続可能な社会についてのディスカッションを行い、SDGsや環境問題について主体的に考える機会となりました。



環境カレンダー2026

環境省・環境再生保全機構が主催・共催・後援、出展する、環境に関するさまざまなイベントや行事をご紹介します。これからの環境アクションや活動計画のきっかけに！

1月 「第11回全国ユース環境活動発表大会」(全国大会) 1月31日

国連大学で開催

2月1日

2月 「サステナアワード2026」募集開始
「第8回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン」募集開始

4月 みどりの月間 4月15日～5月14日
5月4日のみどりの日を挟んだ4月15日～5月14日は、自然に親しみ、その理解と関心を深める「みどりの月間」です

5月 みどりの月間 4月15日-5月14日
「2026NEW環境展／2026地球温暖化防止展」 5月20日-22日

海ごみゼロウィーク

海洋ごみを減らすための清掃活動の強化期間です

6月 環境の日 6月5日
6月5日は環境基本法で定められた「環境の日」です。ランドマーク施設における「グリーン」の特別ライティングなど、全国各地でさまざまな取り組みが行われます

環境月間

「環境省グッドライフアワード」募集開始

7月 「いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』チャレンジ・アワード2026」募集開始

8月 「令和8年度こども霞が関見学デー」
2025年度 ERCAブース出展！

9月 動物愛護週間 9月20日～26日
動物の愛護と適正な飼養についての理解と関心を深めるため、国・地方自治体・関係団体が協力して各種行事を実施しています

10月 3R推進月間
国民や事業者の3R(リデュース、リユース、リサイクル)の取り組み、活動の拡大のため、循環型社会の構築に向けたさまざまな情報発信や取り組みの促進に関する行事を展開しています

食品ロス削減月間

食品ロス削減の日 10月30日

「第12回全国ユース環境活動発表大会」募集開始

2027年度 地球環境基金助成金要望書
受付期間 ～11月中旬

11月 「GTF グリーンチャレンジデー 2026」
企業・地方自治体・団体・市民一人ひとりの地球に優しい行動＝「グリーンチャレンジ」を応援するイベントです

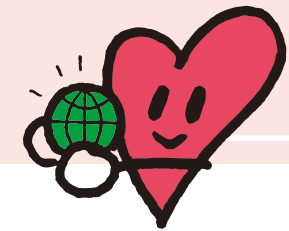
12月 「エコプロ 2026」
東京ビッグサイトで開催される、国内最大規模の環境イベントです

※記載のイベントは、2025年11月現在の予定であり、今後変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。



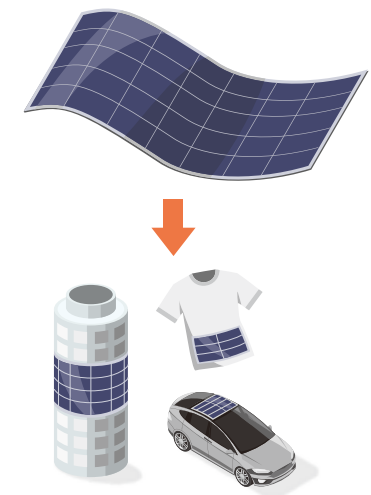
Do you know these keywords?

環境キーワード



ペロブスカイト太陽電池

ペロブスカイト太陽電池とは、ペロブスカイト結晶構造と呼ばれる化合物を発電層に活用する太陽電池で、**日本発の技術**です。小さな結晶の集合体が膜になっているため、フィルムなどに塗布・印刷が可能。**軽くて柔軟で曲げることもでき、弱い光でも発電できる**のが特長です。現在主流であるシリコン系太陽電池に比べて、製造工程が少なく大量生産が容易で低コスト化が見込めます。また、主原料である「ヨウ素」の生産量は、日本が世界第2位、**世界シェア約3割**を占めています。寿命の短さ、耐久性、エネルギー変換効率などの課題はありますが、これまで設置困難だった建物の壁、窓、湾曲面などにも設置できその汎用性は広く、実用化・普及が期待されています。



産官学金労言士



産(産業)、官(行政)、学(学術・教育機関)、金(金融)、労(労働)、言(言論・マスコミ)、士/師(士業/医療)を指しています。2025年6月、内閣府「地方創生2.0基本構想」に登場した言葉です。脱炭素と地域の活性を同時に目指す「まちづくり」にも、**これらの多様なプレイヤーの連携・協働が欠かせません**。地元を支えるさまざまなプレイヤーがつながり、新しい担い手たちが生まれることにより、「地域脱炭素」のさらなる推進と、未来に向けたまちづくりに結びつきます。

基金へのご支援をありがとうございます

個人や企業・団体としてご協力いただいた方はもちろん、
さまざまなイベントを通じて募金活動にご参加・ご協力いただいた大勢の方々に深く御礼申し上げます。

2024年10月から2025年9月末日現在までに1,164件 総額 **19,430,882** 円のご支援をいただきました

個人

青木 大地 大法院 良子
秋保 容子 高橋 秀忠
飯塚 智 田口 修冬
池亀 裕子 谷 昇一
池田 朝雄 谷山 正恵
石井 忠一 中川 俊二
石川 倫 長洲 智子
石田 洋子 中原 宏
伊藤 文子 永見 泰宏
井上 雅晴 野田 好和
植松 橋本 雄次
榎本 しづ江 土生 亜紀子
海老原 啓介 福原 未来
大澤 幸子 福山 賢一
笠井 洋 藤江 績馨
門畑 裕美子 藤岡 俊輔
菊地 裕子 藤田 周一
北村 浩一 松崎 若草
奥村 美沙子 村上 基
関岡 一樹 吉田 龍貴
窪原 麻希 吉田 実
窪原 容子 渡邊 幸平
黒木 裕子 渡部 智寛
光山 拓実
古賀 幸宏
小関 ミイ子
小林 大
小山 明子
酒井 航介
嶋山 泰樹
笹生 真悟
佐野 郁夫
篠原 泰
志村 和男
首藤 隆
杉本 敦也
鈴木 通子
相馬 芳瑞
相馬 なおみ

企業

アールピーシーコンサルタント株式会社
浅香工業株式会社
イーパートナーズ株式会社
井村屋グループ株式会社 経営戦略室
嬉野温泉病院 芸術療法科
HR Tech Management 株式会社
SG ホールディングス株式会社
大塚実業株式会社
オリンバス株式会社
神奈川精機株式会社
株式会社 REJ
株式会社アイスクリーム
株式会社アクセル
株式会社旭工業所
株式会社朝日フィナンシャルグループ
株式会社 AZent
株式会社 ATARAYO
株式会社 Another works
株式会社 Izu
株式会社 イニシエート
株式会社 AIDAO
株式会社 エースランドリー 総務部
株式会社 s.create
株式会社 FIS ソリューションズ
株式会社 CARDS

株式会社感動経済社
株式会社 Career Direction
株式会社 グラン・ラフィネ はるな薬局 宝塚店
株式会社 グラン・ラフィネ はるな薬局 宮の前店
株式会社 ゴーズウェル
株式会社 Konnect-link
株式会社 Sacco
株式会社 ジャスティス
株式会社 ジャパンクリエイト
株式会社 SPIRITS
株式会社 ソルバック
株式会社 橋フォーサイトグループ
株式会社 タニタ
株式会社 タマガワイサポート
株式会社 ちきゅうのうたげ
株式会社 Tsunagari
株式会社 Dooox
株式会社 ドローン・フロンティア
株式会社 日本情報マート
株式会社 NexTone
株式会社 HAP
株式会社 日比谷花壇
株式会社 ボーダレス・ジャパン
株式会社 マグノリア・スポーツマネジメント
株式会社 宮城運輸

株式会社 MEIMON
株式会社 ユナイテッドウィル
株式会社 ReGo
CarpeDiem 株式会社
かわかみ薬局行橋厚生病院前店
キリンホールディングス株式会社
gooddo 株式会社
サンクルーズ株式会社
ZuMy 株式会社
税理士法人エンパワージャパン
ツアン・システム株式会社
績特許事務所
Digital Entertainment Asset Pte.Ltd.
東芝プラントシステム株式会社
鳥取ファーマーズガーデン
名古屋ハイウェイ株式会社
日本紙通商株式会社
パナソニックエレクトリックワークス社
Beautiful Life College
ポケットカード株式会社
三菱 UFJ ニコス株式会社 商品開発部ポイントサービスグループ
有限会社 メディカルライフ
リテル株式会社

国・地方公共団体

朝日町役場
斑鳩町役場 住民生活部 環境対策課
大牟田市役所 環境部 環境保全課
つがる市役所 民生部 市民課環境衛生係
富士市役所 環境部 環境総務課
行橋市役所 環境水道部 環境課

企業連携プロジェクト

一般社団法人 日本釣用品工業会

その他

一般財団法人環境イノベーション情報機構
一般社団法人全国燃料協会
岩倉市環境フェア2024 実行委員会
エコプロ 2024
愛媛県総合科学博物館
環境団体交流会
きょうといきものフェス2024
こども霞が関見学デー 2025
社会福祉法人ゆあみ会
特定非営利活動法人 WARP - LEENET 井上 チイ子
日本リ・ソイル工業協同組合
梅花女子大学 茶道部
ロハスフェスタ実行委員会

※このリストは、地球環境基金への振込通知書などに記載された名称・氏名に基づき作成しておりますので、個人および企業・団体などの区別につきまして必ずしも正確ではない場合があります。また、紙面の都合により、ご寄付・ご支援くださったすべての方々のお名前を掲載できない場合もございますので、ご了承ください。

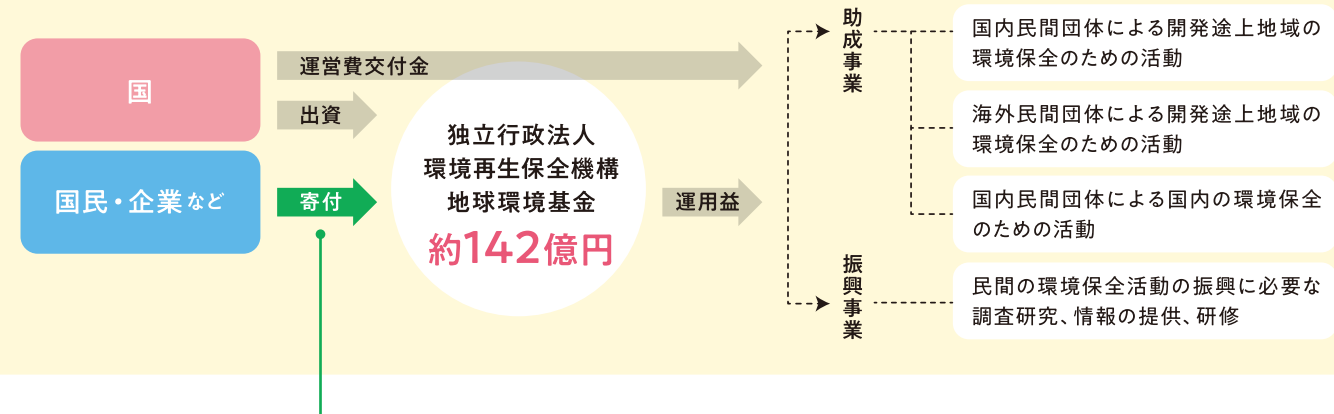
(五十音順・敬称略)



ご寄付について

皆さまのご協力が、多くの環境保全活動、持続可能な社会実現への
支えになっています。

環境再生保全機構は、国の出資金と民間からの寄付金により「地球環境基金」を設け、
その運用益と国からの運営費交付金により、国内外の民間団体 (NGO・NPO) が行う環境保全活動へ支援を行っています。



さまざまな方法でご寄付いただけます

独立行政法人 環境再生保全機構は特定公益増進法人に指定されており、
税制上の優遇措置を受けることができます。



詳しくは
地球環境基金ホームページ
「ご寄付の方法」をご覧ください
<https://www.erca.go.jp/jfge/donation/raise/>

金融機関の口座振込で寄付

ゆうちょ銀行窓口でお手続きいただいた場合は、振込手数料が免除されます。

銀行名／支店名	ゆうちょ銀行	三井住友銀行／東京公務部	三菱UFJ銀行／本店	みずほ銀行／本店	りそな銀行／赤坂支店
口座番号	00190-664214	普通預金 3013615	普通預金 7637448	普通預金 2413416	普通預金 1023850
口座名称	独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金				

募金箱を設置して寄付



募金箱を
貸し出しています。

遺贈として寄付

遺贈先に地球環境基金をご指定いただく方法です。
以下の窓口にお気軽に質問、ご相談ください。
<レディーフォー遺贈寄付サポート窓口>
0120-948-313 (通話料無料)
受付時間：平日 10:00 ～ 17:00

サポーターとして継続寄付

毎月または毎年の寄付により、環境
NGO・NPO の環境保全活動を継続的
にサポートいただく方法です。ホームページから
お申し込みいただけます。

不要になったモノを巡らせながら寄付



ブックオフコーポレーション株式会社の宅配買取サービス
「キモチと。」を活用した寄付方法です。読み終わった本、
CD・DVD、ゲームソフトなどの買取金額が地球環境基金に
寄付されます。



フリマアプリ「メルカリ」に出品して得た商品の売上金を寄付
いただく方法です。



生地が傷んでしまったバッグ、服などを株式会社エンパワー
に買い取っていただき、買取金額+その10%の金額が寄付
される方法です。
(この寄付方法では株式会社エンパワーの鑑定士をご自宅へ派遣する
「出張買取サービス」が採用されています。)

気軽に日常的に寄付



全国のファミリーマートにある「マルチ
コピー機」を使って手軽に寄付いた
できます。24 時間いつでもお手続
可能です。



月々の携帯電話利用料金とまとめて
寄付いただけるほか、ソフトバンク
ポイントなどによる寄付が可能です。



みずほ銀行が提供するスマホ決済
サービス「J-Coin Pay」のアプリから
寄付いただけます。

PRESENT

読者アンケートにお答えいただいた方の中から抽選でプレゼントします。ご回答、お待ちしております！

▶ 読者アンケートにご協力いただけませんか？

1
名様

小森 隼さんの
サイン色紙



10
名様

地球環境基金
オリジナル・
エコボトル



【応募締め切り】2026 年 6 月末
【応募方法】アンケートはがき、
WEB サイト

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって
代えさせていただきます。



編集後記

地域の自然資源を活かした再生可能エネルギーの取り組みが、暮らしの中に根付き始めています。今号では「地域
脱炭素」をテーマに、脱炭素と地域活性の両立を目指す助成先団体の取り組みを紹介しました。地域単位の取り
組みが、やがては地球規模のうねりにつながることを信じて、今日からできる環境アクションを始めてみませんか。

Special Interview

KOMORI HAYATO

GENERATIONS のメンバーとして活躍する一方で

ラジオを通じて中高生リスナーと日々対話する、小森隼さん。

30歳のご自身と10代の環境意識の違い、地元への想いなどを伺いました。

インタビュー
フルバージョンは
WEBサイトで
1月公開予定!



「意味ないよ」で 思考停止にせず 考え続けることに意味がある

こもり はやと
小森 隼

1995年生まれ、三重県出身。GENERATIONSのメンバー。2021年より平日夜の帯ラジオ「SCHOOL OF LOCK! (TOKYO FM)」では、こもり校長として10代リスナーと対話。2025年10月には、報道・情報番組「THE TIME, (TBS 系列)」の金曜マンスリーレギュラーとして出演。

Q2

10代のラジオリスナーと
環境について話すことはありますか？

あります。世代を超えた
“価値観の交換”が
再発見にもつながります

10代のリスナーの中には、農業高校に通っている子、「地元に残って地元のことを発信していきたいんだけど」と相談してきてくれる子もいます。農家の家の子からは「どうやれば地域って回していけるの？後継者がいなくてまちからいろいろなものがなくなっていく…」みたいな話も出ます。「今度、環境活動の発表があります!」と言う子もいました。今の中高生にとってはSDGsとかはあたりまえで、普通に環境問題や地域の課題に触れて、考え、口にします。

一方、僕らの世代(90年代後半~2000年代生まれ)って、少し違って、例えば「環境のために〇〇しています」みたいなことを言うと「何、突然やってんの?」「それって何になるの?」と突っ込まれやすい。問いただされてしまう世代なんです。でも、「意味ないよね」で手放してはいけない。思考をやめちゃいけない。すぐに答えが出せないとしても、考えることに僕は意味があると思っています。

考え続けることで、世代を超えて対話するステージにも立てます。そうすると“価値観の交換”みたいなことが起こるんです。リスナーの中にホタルの研究をしている子がいて、僕が地元のホタルの話をしたら「うらやましいです」って言うてくれて。そうだよな、ホタル綺麗だったよなって改めて思えました。価値観の交換によって、魅力を再発見・再認識できるんですよ。

Q3

環境に対する世の中の変化を
感じる場面はありますか？

お弁当はぴったり人数分。

それでOK! **最低限でいい**

あります。例えば、GENERATIONSの活動現場で、以前はお弁当が肉と魚で2種類あったら、2種類それぞれが人数分用意されていたんです。でも最近は2種類あわせて人数分ぴったりだったりします。それで十分なんです。これまで、きっと心遣いでやってきていたと思うんですが、無駄を出さない最低限の数でいい。そういうことの積み重ねが大事だと思います。

あとは、番組収録のカンペが紙じゃなくデジタルに変わった時には、時代の変化を感じました。理由は環境配慮だけではないかもしれませんが、デジタル化は紙ごみをかなり減らしましたよね。



小森 隼さんの環境活動ニュース

「僕自身が環境について最前線で何かをやっているわけではないんですけど」と話す小森さんですが、今号の「地域脱炭素」特集でもカギになっている、地域で活動する“人”が足りない問題の解決につながるような、アクションを展開中です。「コーヒー屋さんが1軒あるだけでも地域にとどまる理由になるかも」と、EXILEのTETSUYAさんが始めた「AMAZING COFFEE」愛知・名古屋店のプロデュースを担当しています。メニューでも東海地域らしさを発信中!



Q4

これからやってみたいことは
ありますか？

全国各地を巡って
体験を重ねたい

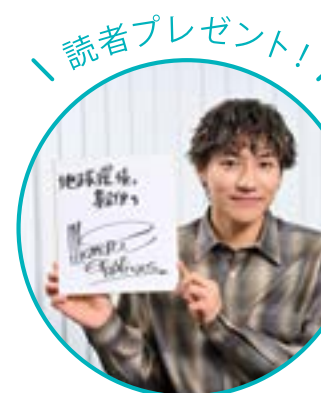
北海道から沖縄まで全国各地を巡りたいです。焼き物、編み物、漆とかの伝統工芸や文化に直接触れてみたいです。文化も環境も同じで、ずっとつないできたもの、培ってきたものってやっぱり美しいです。僕は音楽とダンスをやっていることもあり、各地のお祭りにも興味があります。体験って大事なんです。10代の子たちと話していても、農業をやりたいって子は「おじいちゃんの家で夏休みに畑、手伝ってました」みたいな経験がどこかしらにあります。だからこそ、経験することを重ねていきたいと思っています。

Q5

読者の皆さんに
メッセージをお願いします!

僕も発信を続けていくので
皆さんも**環境活動**を
続けてください

何事もひとりだけで完結することってないし、すぐに形にならないこともいっぱいあります。分野は違えど、僕も同じです。無駄ないように感じてしまうこと、無駄だと思われたり言われたりすることもあります。でも誰かと一緒にやることで形になったり、誰かを介して形になることもあります。たぶん、一人ひとりに使命があると思うんです。僕はきっとこうして発信することが使命。皆さんにも使命がある。僕は僕ができることを続けていくので、皆さんも自信をもって続けてください。そのバトンがどこかのタイミングで絶対に形になりますから!



詳しくはP.17へ▶